



TEAM 2022

KEIO
VOLLEY
BALL

the Autumn League Pamphlet



ROSTER

PLAYERS



4年 S/主将
1 高倉 真古都
Makoto Takakura

出身校 慶應義塾 身長 178cm
学部 商学部 最高到達点 317cm



3年 OP
2 松本 喜輝
Yoshiteru Matsumoto

出身校 九州産業 身長 186cm
学部 環境情報学部 最高到達点 339cm



2年 OH/OP
3 渡邊 大昭
Hiroaki Watanabe

出身校 慶應義塾 身長 189cm
学部 商学部 最高到達点 334cm



1年 OP
5 山木 柊
Shu Yamaki

出身校 慶應SFC 身長 173cm
学部 文学部 最高到達点 316cm



3年 OH
6 島田 航希
Kazuki Shimada

出身校 慶應義塾 身長 182cm
学部 経済学部 最高到達点 320cm



1年 L
7 山元 康生
Kousei Yamamoto

出身校 慶應義塾 身長 171cm
学部 法学部法律学科 最高到達点 310cm



2年 MB
8 芳賀 祐介
Yusuke Haga

出身校 札幌北 身長 197cm
学部 環境情報学部 最高到達点 338cm



4年 MB/副将
9 降 小雨
Kosame Jan

出身校 慶應義塾 身長 191cm
学部 商学部 最高到達点 340cm



3年 S/副将
10 大槻 晟己
Masaki Ohtsuki

出身校 清風 身長 176cm
学部 総合政策学部 最高到達点 311cm



1年 OH
11 入来 晃徳
Akinori Iriki

出身校 佐世保南 身長 187cm
学部 環境情報学部 最高到達点 343cm



2年 OH
12 内田 克弥
Katsuya Uchida

出身校 松江高専 身長 181cm
学部 環境情報学部 最高到達点 321cm



1年 S
15 久保田 健介
Kensuke Kubota

出身校 慶應SFC 身長 168cm
学部 商学部 最高到達点 307cm



1年 L
17 平山 一之心
Kazunoshin Hirayama

出身校 甲南 身長 171cm
学部 商学部 最高到達点 315cm



4年 OH
18 安達 龍一
Ryuichi Adachi

出身校 洲本 身長 198cm
学部 環境情報学部 最高到達点 339cm



2年 S/副務
21 細野 一真
Kazuma Hosono

出身校 慶應義塾 身長 174cm
学部 経済学部 最高到達点 280cm



4年 L
25 樋口 太樹
Taiki Higuchi

出身校 慶應義塾 身長 179cm
学部 経済学部 最高到達点 311cm



4年 MB
27 下田 悠生
Yuki Shimoda

出身校 慶應SFC 身長 191cm
学部 経済学部 最高到達点 338cm



3年 MB
28 西山 誠一郎
Seiichiro Nishiyama

出身校 山口 身長 183cm
学部 法学部政治学科 最高到達点 305cm

STUDENT STAFF



4年 アナリスト
藤田 鈴子
Suzuko Fujita

出身校 学習院女子 身長 167cm
学部 文学部



3年 主務
今田 敏貴
Toshiki Imada

出身校 慶應義塾 身長 171cm
学部 商学部



3年 アナリスト
立川 貴一
Takahito Tatsukawa

出身校 愛光 身長 174cm
学部 商学部



3年 渉外主務
厳 欣怡
Shini Gen

出身校 慶應女子 身長 161cm
学部 経済学部



3年 トレーナー
三ツ井 梨々香
Ririka Mitsui

出身校 慶應SFC 身長 155cm
学部 商学部



2年 アナリスト
田鹿 陽大
Hinata Tajika

出身校 慶應義塾 身長 170cm
学部 法学部法律学科



2年 学連委員
山本 昌岳
Masataka Yamamoto

出身校 慶應義塾 身長 170cm
学部 文学部



1年 スタッフ
河村 歩奈
Ayuna Kawamura

出身校 慶應SFC 身長 158cm
学部 経済学部

COACHING STAFF



部長
和田 龍磨
Tatsuma Wada



総監督
藤澤 昌彦
Masahiko Fujisawa



監督
星谷 健太郎
Kentaro Hoshiya

コーチ
池野谷 輝
Akira Ikenoya

チームドクター
鈴木 陽太
Yota Suzuki

アドバイザー
脇 奈津子
Natsuko Waki

管理栄養士
大村 恵利
Eri Ohmura

メンタルトレーナー
辻 秀一
Shuichi Tuji

FOR
MORE
INFO...

Email : keiovb@hotmail.com
HP : keiovb.com
Twitter : @keiovb
Instagram : keio_official_volleyball

HPや各種SNSはこちらから→



<8月に入部してくれた新入部員をご紹介します！>



かわむら あゆな
河村 歩奈 (経済学部1年・スタッフ)

Q1.入部のきっかけは？

A.「日本一」という目標のもとで、何かに打ち込みたかったから。バレーボール観戦が好きだから。

Q2.4年間の目標は？

A.戦力として、選手とともにチームの勝利に貢献できるようなスタッフになること。

Q3.憧れの先輩は？

A.選手もスタッフも含め全部員を尊敬していますが、部や部員への向き合い方など、目標にしているのは藤田鈴子さん(文4)です！

Q4.このチームの魅力は？

A.メリハリがあると、人として尊敬できる先輩が沢山いるところ。

4年生特集

- Q1, 同期との1番の思い出は?
Q2, 同じポジションの後輩に
ひとこと!
Q3, 秋リーグで注目して欲しい
ポイントは?



高倉真古都(S/主将)

- A1, 龍一(安達・環4)の家で
お酒を飲んだこと
A2, 支えてくれてありがとう!
A3, 強化されたブロック



降小雨(MB/副将)

- A1, 同期で飲み会をして、
樋口(経4)が潰れたこと
A2, 来年はチームを引っ張って
頑張ってください!
A3, リードブロック



安達龍一(OH)

- A1, 大学2年生のときに
バレー部で行ったディズニー
A2, それぞれの持ち味を
出していこう
A3, 高さを生かした攻撃と
ブロック

*4年生思い出の写真



#25



樋口太樹(L)

- A1, 1年生期間。たくさん揉めたけど、その分仲良くなれた気がします。
- A2, 「慶應、守備いいよね」って言われるように頑張りましょう!
- A3, やる気、二段トス、ティグ

#27



下田悠生(MB)

- A1, 龍一(安達・環4)の家での飲み会
- A2, きつい時こそ頑張るぞ!
- A3, サーブ、スパイク



藤田鈴子(ANALIST)

- A1, 夏にビーチバレーの応援に行ったこと。オフの日にも頑張っている安達(環4)の姿を見て、尊敬の気持ちが強まった!
- A2, 頼りにしてます!力合わせてあと3か月頑張ろう!
- A3, 上半期から成長した4年生の姿!ポジションも役割もバラバラな4年生ですが、それぞれ夏の練習に厳しく取り組んできました。ラストシーズン、最上級生として奮闘する姿に是非ご注目ください!

秋リーグでの4年生の活躍にご期待ください!



キャンパスライフ in Keio univ.

文武両道を目指す慶應義塾体育会バレーボール部員のキャンパスライフとは？

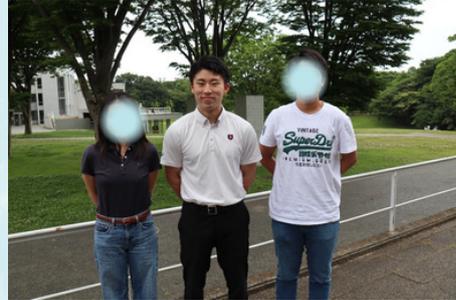
湘南藤沢キャンパス、日吉キャンパス、三田キャンパスに通っている3名の部員に一日のスケジュールを聞いてみました！

@湘南藤沢キャンパス

おおつき まさき
大槻 晟己 総合政策学部 3年

■ある日のスケジュール

- 6:30 起床
- 7:30 通学
- 9:00 授業
- 12:30 食堂で昼食
- 14:30 授業終了後、日吉に移動
- 16:30 部活動
- 19:30 帰宅・夕食
- 22:00 ジムでトレーニング
- 24:00 就寝



大槻が所属する研究会の友人との一枚
@湘南藤沢キャンパス

@日吉キャンパス

ほその かずま
細野 一真 経済学部 2年

■ある日のスケジュール

- 7:00 起床
- 8:30 通学
- 9:00 授業
- 12:00 日吉昼食
- 13:00 授業
- 16:00 部活動
- 19:30 帰宅・夕食
- 24:00 就寝



入学式時の日吉記念館の様子
@日吉キャンパス

@三田キャンパス

じゃん こさめ
降 小雨 商学部 4年

■ある日のスケジュール

- 7:30 起床
- 9:30 自主学习
- 11:00 ジムでトレーニング
- 12:00 三田に移動&昼食
- 14:30 授業終了後、日吉に移動
- 16:30 部活動
- 19:30 帰宅・夕食
- 22:00 自主学习
- 24:30 就寝



降が所属する研究会での一枚
@三田キャンパス

主将 × 副将 × アナリスト 座談会

高倉真古都(商4) 降小雨(商4) 藤田鈴子(文4)

春リーグでは強豪揃いの関東1部で4勝したものの、2部降格という結果に涙を呑んだ塾バレー部。秋リーグでは全勝優勝・1部復帰という目標を掲げ再出発する。今回はそんな塾バレー部を率いる高倉真古都主将、降小雨副将、そしてアナリストとしてチームを支える藤田鈴子の3人の座談会をお届けします。



——それぞれ他己紹介をお願いします！

藤田 降はチームに対して積極的に声を掛けてくれて、頭脳的な部分で引っ張ってくれているなと思います。試合で見てもらえば分かると思うんですけど、本当にアツいです(笑)。後輩たちとも良く絡んでいて、遊んだり、ジムでトレーニングしたり、コミュニケーションの面でも頼りになる存在です。真古都(高倉)も試合で見た通りの部分と、一方で普通の大学生らしさもあるっていうギャップがあると思います。試合中は司令塔兼キャプテンっていう二つの軸があって、言葉はそんなに多くはないんですけどチームをうまくまとめてくれています。普段の練習も締めるところは締めてくれるんですけど、結構後輩からいじられたりもしてて、親しみやすいキャプテンのかなと思います。

高倉 じゃあ次、僕いきます。降は試合を通して指示を出してくれていて、頭脳の部分においてもすごく助かる存在だなと思っています。「チームの頭脳は誰だ？」ってなった時に、たいていはセッターになると思うんですが、うちはそうではないです。慶應の頭脳は降です(笑)。

すず(藤田)は4年生の中では後輩と1番距離が近い存在なのかなと思います。先輩後輩の境目はあるにはあるんですけど、あやふやになっちゃうくらいには(笑)。すごく慕われていますね。アナリストとして戦術面の話で、どうしたらいいかっていうのを選手に細かく聞いてくれるので、選手として(藤田は)本当にありがたい存在ですね。頼りにしています。

降 うーん最後難しいな(笑)。一言で言うと、すずは見えない努力をめっちゃする人なんです。こう言うと(藤田は)「アナリストなんだから当たり前でしょ」って返してくるんですけど、全然そんなことなく。オフを返上して仕事して、キャパオーバーになりかけてるんだろうけど、絶対それをみんなに見せないんですよ。詳しい内容までは分からなくても、チームのためにたくさん動いてくれているのはみんな感じています。自分にはできないことなので純粋に尊敬しています。

真古都は本当にキャプテンっていう言葉が似合うなと思います。部活って色んな利害関係者がいるので、そういう人たちの調整って難しいんですよ。一口に「難しい、」って言うと安易な表現なんですけど、監督やOBの先輩方、チームメイトひとりひとりの想いを一身に背負ってやっているのはすごいと思います。

藤田 改まってこういう話をする機会なんてないもんね。こういう風に思ってるんだって分かって、嬉しくもあり恥ずかしくもあり…(笑)。

高倉 いやそう、これ恥ずかしいんだよな。



——上半期で1番(良い)印象に残っている試合を教えてください。

高倉 僕は順大戦ですかね。1セット取られても、自分たちの戦い方を変えずに相手からどう点を取るかにフォーカスした結果高いパフォーマンスを発揮できた試合だったと思います。ちょうど有観客試合で、見に来てくださった先輩や部員の家族に良い姿を見せられたという意味でも、よく覚えています。

藤田 私も順大戦は良い慶應が出て勝った試合かなと思います。相手に対する対策もはまって、監督やコーチ、中とのコミュニケーションがうまくいきました。試合後に順大のアナリストの方とお話させていただいたんですけど、「慶應と戦うの本当に嫌だったよ」って言っていただいて、手応えを感じた試合でした。

降 僕は筑波大戦かなって思います。(筑波大は)日本代表3人もいるし、単純にキャラだけで見たら…あ、ドラクエ分かります？

高倉 分からない。やったことない(笑)。

降 あ、まじか(笑)。あっポケモンに例えたらわかりやすいかも！あっちは6人全員伝説のポケモンで、対するこっちはそのへんの草むらで捕まえたレベルもバラバラのポケモンって感じで(笑)。

一同 (笑)。

降 「え、勝てるんだ」って(笑)。自分のバレーボール人生の中でまさか筑波大に勝てる日が来るなんて思ってたので、印象に残ってますね。

——逆に1番悔しい試合は？

高倉 それはまあ入替戦ですかね。二人も一緒かな？

降 僕は早慶戦ですかね。



高倉 入替戦は僕は1セットしか出ていなくて、後輩をたくさん出場させるかたちで負けてしまいました。後輩にも責任を背負わせることにもなりましたし、4年生は降と龍一(安達龍一、環4・洲本)しかコートに立っていなかったという状況を作り出してしまったこと、入替戦に向けてチームをうまくマネジメントできなかったこと、リーグ戦から入替戦までの約1ヶ月間の使い方がよくなかったこと…反省点だらけです。自分としては一生忘れない試合かなって思います。

藤田 私も入替戦の話で…。アナリストとしての準備が足りなかったと感じています。後悔が大きい試合で、試合後の同期や後輩の顔を見たときに、もっとできたことがあったはずなのにできなかったっていう個人としての後悔と、自分たちの準備不足ですかね。正直、これは慢心だったなって思うんですけど、負けると思っていなくて。今でも(試合の)動画を見たら嫌になるくらい悪い印象に残っています。

降 入替戦ってすべての試合の中で1番難しくて。僕今まで3回入替戦を経験しているんですけど、入替戦ってピリッとしていて雰囲気独特なんですよね。僕試合でめったに緊張することないんですけど、入替戦の日はちょっと緊張します。試合慣れしている僕で緊張するんだから、初めて入替戦を経験するメンバーは相当緊張していたと思います。そういうプレッシャーに対して向かっていくスキルが足りなかったんだと思います。そこはまあドライに割り切ると、準備が出来ていなくて負けた試合だったのかなと思います。でも早慶戦は、万全な準備をしていた上で、負けてしまったので悔しいの種類がちょっと違う感じですね。



——入替戦から期間が短いなかでの早慶戦だったと思いますが、切り替えとか気持ちの面ではいかがでしたか。

高倉 過去には戻れないので、今から起こることに對して最善の準備をしようということでもみんなチーム全体で鼓舞してくれたりだとか、僕はそんなに口うるさく言ったつもりはないんですけど、やっぱりなんとなくみんなそれは分かっているその行動の結果として表れたのがあの早慶戦かなと僕は思っています。

藤田 そこはやっぱり部員一人一人が引きずっていても意味がないというか、パフォーマンスは上がっていないところを分かっている上で切り替えてやってくれていたのかなという風に思っています。入替戦は選手が中心となって作っていたという部分があったんですけど、やっぱり早慶戦ってなるとマネージャー陣とかが頑張ってくれていて、そういうところの思いも選手も選手以外も各々分かっていたので、そういう人たちのためにもっていう思いは結構大きかったんじゃないかな。一丸となって前を向いて出来た部分ではあったのかなと思います。

降 はい、左の左にも同じです(笑)。

——夏の練習(ここ1か月間)はどんなことを意識しましたか。

高倉 技術的なところだと三枚ブロックの徹底と、あとリードブロックですかね。強いサーブに対して狙うことより、それをどうにか返して相手の攻撃を防御する方に重点を置いた方がいいんじゃないかという意見があって。リードブロックは普通のシチュエーションでブロックして、で三枚は相手が出てきた時にそれをどう仕留めるか、それをどう良い返しをするかというところをこの1か月間で到達してきたかなと僕は思っています。リードブロックの精度甘いよねというところでそこは伸ばしてきたかなと思います。

——アナリストとして意識してきたことはありますか。

藤田 さっき言ってくれたブロックの部分だったり、サーブレシーブの部分だったり、あとはその一方で例えば万全な状態で攻撃ってなればうちは他のどの1部のチームにも負けないような強さを持っていると思うのでそういった強みを伸ばしつつ、これまでのシーズンを通して自分たちの課題というのは結構浮き彫りになっていたんで、課題の克服っていうところは意識していました。



——チームとしての目標と3人方の個人としての目標をお願いします。

藤田 チームとしての目標は秋リーグで絶対に1部に昇格するという、あと全日本インカレで日本一になる、そこは当初立てた目標とは変えずにやっていきたいと思っています。チームの目標に対して、私個人としては、自分が日本一に近いアナリストになるということです。自分の実力不足で悔しい思いをたくさんしてきたので、一つ一つ選手と一緒に成長していきたいなと思っています。バレーボールに真剣に打ち込む機会というのがこれでラストシーズンになるので、あの先輩凄かったなというのを後から振り返って思ってもらえるように爪痕を残しておきたいです。私はバレーボールが好きっていうその一本でこの部活を頑張ってきたので自分の限界を超えていきたいなと。日本一目指して頑張っていきたいと思っています！

高倉 チームとしての目標はずが言った通り、全勝・1部昇格で全日本インカレ優勝というところは僕も変わらないです。それに向けて個人としては安定したプレーをしなきゃいけないなと思っていて、別に僕は点を取るポジションではなく、味方が点を取ってくれるポジションなので味方が点を取るために安定した土台というか、そういったものはセッターとして持つておかないといけないスキルなので、そこは詰めていけないといけない部分だと思っています。僕もあと3~4か月くらいしか熱を持ってバレーボールをする環境はないので、どこまで出来るのかというところは挑戦していきたいですし、後輩にも良い姿を見せられればなという風に思っているところです。

降 チームとしての目標は同じなんですけど、個人としてはいくつか個人賞をもらってからいなくなろうかなと思っています。去年の秋、ブロック賞をありがたいことに頂いたんですけど、まあちょっと1個じゃ足りない、つまんなかったんで、捺暉（小出捺暉、令4環卒・駿台学園）さんが3つくらいもらっていて、

「わあいいな」て思ったので今年の秋はブロック賞とスパイク賞とサーブ賞の3つくらい抱えて、最後写真を取れたらいいなと思っています。それこそ後輩に芳賀祐介（環2・札幌北）っているんですけど、彼が4年間かかっても追いつけないくらいの実績を残して、「あの同じポジションの先輩の降さんすごかったな」と思うくらいの戦績を手に入れてから卒業したいと思っています。4年生としては僕も社会人になるし、プロではやらないので、多分趣味でもバレーボールをやらないと思うので、10年ちょっとバレーボールやってきたんですけど、自分の中で培ってきた哲学とか考え方を後輩、多分全員に伝えるのは難しいと思うので、キープレーヤーになりそうな人にちょっとずつ伝えて有終の美を飾えられたらと思っています。

——最後に、秋リーグに向けて意気込みをお願いします！

藤田 （1部）昇格一本しか見ていなくて、正直厳しい戦いになると思っています。1回でも負けたら苦しい、勝たないといけないというところはすごいプレッシャーになると思うんですけど、そのプレッシャーにも打ち勝てるだけの土台はみんな絶対どこかには持っていると思います。そこを意識して秋、本当に昇格という一番高い目標に向けてチーム一丸となって頑張っていきたいなと思います。

降 意気込みはそうですね、頑張ります。全然ふざけている訳ではなくて頑張るしかないんで。本当に自分一人に対しても色々な関係者の方が、慶應スポーツ新聞会さんに然り、こうやって取材に来てくださるのは本当にありがたいことだと思っています。月並みなんですけど精一杯頑張ります。多くは語らないです。

高倉 意気込みなのでもう一言だけ。本当に全勝で1部に戻るということ、これをどれだけチームのみんなに共有して突き詰められるかだと思います。そこは試合結果に貪欲に、普段の練習も貪欲に頑張っていきたいなっていう風に思っています。

——ありがとうございました！



インタビュー全文は慶應スポーツ新聞会ホームページにてご覧いただけます。

下記QRコードを読み取り、ぜひご覧ください！



KEIO VOLLEYBALL

部内

RANKING

新企画!一緒に過ごす時間が誰よりも長いからこそ知っている部員たちの姿をお届けするべく、
以下8つのテーマに当てはまる人物を全部員に答えてもらいました!
試合だけでは分からない部員の新たな一面とは・・・??

Q.一番熱い人は?

第1位

大槻晟己(S・総3)

第2位 平山一之心(L・商1)

第3位 内田克弥(OH/L・環2)

投票者の声

to大槻「芯がしっかりしているから」(三ツ井)「負けず嫌いな姿勢を常に感じるから」(下田)「誰よりも熱いものを内に秘めている」(今田)「何事にも全力」(安達)

to平山「常に声を出し、チームを鼓舞しているから」(松本)「人を惹きつける熱い想いを持っているから」(高倉)

to内田「闘志向き出してバレーに全力な姿勢から日々刺激を貰っている」(藤田)

生まれてこの方、自分の周りが熱いような気がしていました。熱いのは自分だったと知ることができてよかったです。



自分ではギャップなんて無いと思っていたので、びっくりです(笑)ギャップ1位は素直に嬉しいです!!

Q.ギャップがある人は?

第1位

島田航希(OH・経3)

第2位 田鹿陽大(アナリスト・法2)

第3位 高倉真古都(S・商4)

投票者の声

to島田「プレーは冷静沈着なのに、実はパンダが大好きという一面を持つ」(降)「見た目はクールで、ふざける時も多いが自主練には最後まで残り、時にはとても真剣にバレーを教えてくれる」(平山)

to田鹿「おちゃらけてそうに見えて誰よりもバレーボールに真剣に取り組んでいて、後輩の面倒見も良い。尊敬しています」(河村)

to高倉「キャプテンで真面目だが実はテイズニー好き」(田鹿)



樋口さん、大槻さんを差し置いてこの順位を頂けた事、とても光栄に思います。いずれ、各大学バレー部のマッチョと共に合トレをする事が僕の密かな夢です。

Q.筋肉がすごい人は?

第1位

平山一之心(L・商1)

第2位 大槻晟己(S・総3)

第3位 樋口太樹(L・経4)

投票者の声

to平山「筋肉自慢やかましいけど一年生であのフィジカルは純粋にすごいと思う」(藤田)「とにかく筋トレが大好き」(山元)

to大槻「慶應筋肉コンテストに出るらしいので」(立川)「見ての通り」(樋口)「ストイックだから」(渡邊)

to樋口「4年間近くで見えてきてすごいと感じるから」(下田)「腕が太いから」(入来)「元祖筋肉キャラの誇りを取り戻してきているので期待も込めて選出」(大槻)



Q.生まれ変わってみたい人は?

第1位

安達龍一(OH・環4)

第2位 巖欣怡(涉外主務・経3)

第3位 下田悠生(MB・経4)

松本喜輝(OP・環3)

投票者の声

to安達「あの高さでバレーボールをしたいから」(渡邊)「身長的にも性格的にも人生的にも、安達龍一にしか見れない世界がありそう」(藤田)

to巖「自分と違って周りを引っ張っていける人だから」(下田)「勝ち組人生を歩みたかった」(平山)

to下田「頭の回転が速いから」(樋口)

to松本「自分もエースになってチームを引っ張ってみたい」(山元)

正直1番無いと思っていたのでびっくりしています。身長と生まれ育った環境が特異過ぎたのかなと思います(笑)



素直に嬉しいです。
これからも精進しま
す!!(笑)

Q.運動神経が良い人は？

第1位
高倉真古都(S・商4)

第2位 **大槻晟己(S・総3)**

第3位 **平山一之心(L・商1)**
河村歩奈(スタッフ・総1)

投票者の声

to高倉「中学時代にスポ-ツテスト1位の肩書きを持つから」(今田)「ある程度のスポ-ツは全てできるイメージ」(松本)「ボールさばきが華麗だなとふとした時に感じるから」(河村)

to大槻「体力、筋力はもちろん、ボールの扱い方が上手で何をやっても様になる」(藤田)

to平山「動きが滑らかだから」(立川)

to河村「ボールキャッチが着実に上手くなってるから」(下田)



Q.バレーIQが特に高い人は？

第1位
降小雨(MB・商4)

第2位 **島田航希(OH・総3)**

第3位 **大槻晟己(S・総3)**

投票者の声

to降「経験豊富且つそれを言葉にして発信できるから」(下田)「常にコートの中でその時の状況に合わせて指示を出している」(松本)

to島田「ボールタッチはもちろん、ラリー中の判断力もピカイチ」(大槻)「冷静なプレーに何度も助けられました」(高倉)

to大槻「全てのプレーが上手い」(平山)「ボールゲームで敵になったら嫌だし、一緒のチームになったら心強い」(西山)

率直に驚きです(笑)
たまたま一年生の頃から出場する機会が多く、そこで得た経験を積極的に周りに還元するよう意識していたので、そういった部分を、部員の皆が評価してくれたのかなあと思っています(笑)



Q.良いお父さんになりそうな人は？

第1位
渡邊大昭(OH/OP・商2)

第2位 **大槻晟己(S・総3)**

第3位 **山木柊(OP・文1)**

投票者の声

to渡邊「優しくすぎるし、ちゃんと人のことを見ていて面倒見が良いから」(平山)「人に当たらないし子供に優しくそう」(下田)

to大槻「怒るべきところは怒って、褒めるべきところはしっかり褒めてくれそう」(三ツ井)「面倒見がよくて、良いことと悪いことをしっかりと伝えることが出来そう」(松本)

to山木「明るくまっすぐに人と向き合ってくれるので、今後良い先輩になりそうだなと思うし多分良いお父さんにもなりそう」(藤田)

1位に選んでいただけに光栄です！良い家庭を築いていけるように頑張ります！料理はなんでも作れるので任せてください!!!



Q.ベストペアは？

第1位
安達(OH・環4)
&島田(OH・総3)

第2位 **高倉(S・商4)&下田(MB・総4)**

第3位 **入来(OH・環1)&山木(OP・文1)**

投票者の声

to安達&島田「タイプの異なる2人だが、ビーチバレーの長時間の練習を経て強固な絆で結ばれている」(大槻)「お互いが一番の理解者であるという感じがするから」(河村)

to高倉&下田「この二人の会話を聞くだけでほっこりした気持ちになる。じわりとくる笑いの会話が大好きです」(今田)「見ていてとても愛おしいから」(細野)

to入来&山木「愛憎相半ばする、憎しみながらもお互いをリスペクトしている」(田鹿)

(安達)
ビーチバレーで長い時間2人でいたのが、みんなにそう印象付けたのかなと思います。最高のパートナーです！

(島田)
自分でも安達先輩と僕はプレーのとき相乗効果を発揮できるのでベストペアだと思います！笑



他にもこんな意見がありました！

一番熱い人は？

藤田鈴子(アナリスト・文4)

→選手よりも勝ちたいという情熱を持っているから(島田)

ギャップがある人は？

下田悠生(MB・総4)

→表向きは真面目だけど、少し距離が縮まると見せるしたたかさは一級品のギャップ(藤田)

生まれ変わってみたい人は？

星谷健太郎監督

→キリッとした顔立ち、日本人離れのスタイルの良さ、頭脳明晰、アスリートとしての経歴、全て完璧です(大槻)

ベストペアは？

樋口(L・総4)&島田(OH・総3)

→いつも戯れ合う姿に心が和みます(山木)



第86回早慶バレーボール定期戦

7月30日(土)に早稲田アリーナにて開催されました、第86回早慶バレーボール定期戦にお越しいただいた皆様、そしてライブ配信を通して応援してくださった皆様、誠に有難うございました。来年こそは早稲田に勝利すべく部員一同精進してまいりますので、今後とも変わらぬご支援ご声援のほどよろしくお願いいたします。



関東大学ビーチバレーボール選手権

安達・島田ペアは立正大学（浅岡・中嶋ペア）にセットカウント2-0で、そして準々決勝では日本大学（市川・横山ペア）にセットカウント2-1で勝利し、準決勝へ進出。日本体育大学（富田・濱口ペア）との準決勝ではセットカウント0-2で敗北を喫した。

内田・芳賀ペアは1回戦の亜細亜大学（空・岡本ペア）にはストレートで快勝。日本体育大学（富田・濱口ペア）との2回戦ではフルセットに持ち込んだもののセットカウント2-1で惜敗した。

よって、安達・島田ペアはベスト4、内田・芳賀ペアはベスト16という最終結果となった。



安達龍一(環4)
島田航希(経3)



内田克弥(環2)
芳賀祐介(環2)

が出場しました！

全日本ビーチバレーボールU-23男女選抜優勝大会 & 全日本ビーチバレーボール大学選手権

安達龍一(環4)
島田航希(経3)

が出場しました！

【U-23】順位決定グループ戦では全勝。トーナメント戦では山形県立山形南高等学校（菅原・真木ペア）に勝利するも仙台大学（渡邊・谷田ペア）には敗北を喫し、最終結果はベスト16。

【全日本】予選グループ戦では全勝。決勝トーナメント戦では福山平成大学（内田・三原ペア）に快勝するも神戸学院大学（出口・溝端ペア）には惜敗し、最終結果はベスト8。





安達龍一

Q1, 今季のビーチでの活動を振り返って

今年はインドアの春リーグが予定通り開催されたため、リーグ戦が中止となった昨年と比べてインドアとビーチを両立することの難しさをさらに感じました。中でも、自分達の出来ることをやりきりましたが、思うような結果を残すことはできませんでした。しかし、ビーチバレーをインドアバレーボールの成長に繋げられた手応えは大きく、後悔はありません。今後の活動の糧にしたいと思います。

Q2, 自分しか知らない島田の一面は？

ビーチの試合で意外と緊張しているのかなと思うことがあります。試合前になるとアップ中にもかかわらず、頻りにトイレに行ってるのを見ます。普段は器用になんでもこなしているのが最初は意外でした。

Q3, ビーチバレーを見る際に注目して欲しいところは？

レシーブと繋ぎです。

インドアとは異なり、2人で8×8メートルのコートを守るため、ラリーが続かないように思うかもしれませんが、砂地で風もあるので、良い状況で強打を打つ機会は少なくなります。そのため、相手のいないところにミートして返す、それを拾い攻撃する、これの繰り返しになります。ギリギリレシーブを上げ、繋ぎでカバーする。意外と落ちず、ハラハラの連続なので是非注目して見ていただきたいです。

Q4, 今後の塾バレー部のビーチでの活動に期待することは？

今年は最後の年というもあり、島田には特にプレッシャーをかけてしまい申し訳なかったなと思っています。来年は島田も最後の年になるので、後悔のないように頑張ってください！私が最後まで果たせなかった大学選手権優勝を期待しています！



島田航希

Q1, 今季のビーチでの活動を振り返って

昨年はコロナ禍の影響で春リーグが中止となり、ビーチバレーの練習に多くの時間、体力を割くことができました。一方、今季は授業をはじめ、春リーグや早慶戦との両立という中で多忙ではありましたが、中身の詰まった充実した日々を過ごすことが出来ました。ビーチバレーの大会で練習を休むとき、迷惑をかけているのにもかかわらず快く送り出してくれた部員には感謝していますし、オフの日には試合の応援に駆けつけてくれました。しかし、その期待に応えられなかったこと、ビーチバレーという競技に誘ってもらい、3年間ペアを組んで頂いた4年の安達先輩に日本一になって気持ちよく卒業してもらおうこともできなかったのが正直悔しい気持ちでいっぱいです。最初は、お遊び程度で取り組んでいたビーチバレーにここまで本気になれたこと、色々な人に出会えたこと、さらにこんなにも楽しい競技に出会わせていただいたこと、安達先輩には感謝してもきれません。ちなみに、安達先輩は卒業後もビーチバレーを続けるみたいなので次いつか組む機会があったら日本を代表するトップ選手になっていて貰いたいです。

Q2, 自分しか知らない安達の一面は？

試合中は頼りになる安達先輩の部屋にはぬいぐるみが沢山あり、家にいる時は我が子のように愛情を注いで可愛がりながら育てています。

Q3, ビーチバレーを見る際に注目して欲しいところは？

8×8のコートを2人で守らないといけないので、相手の攻撃に対しては、どのコースをブロックで絞るか、反対にどのコースを空けるか、どこまでのボールを自分が担当するかなど、試合の中でその都度コミュニケーションを取ることがビーチバレーでは重要です。また、屋外で行うスポーツなのでその日によって風の方向や強さが違ってきます。ボールが空中で揺れたり加速、急降下するので、それを常に考慮してどうやって点を取るかを模索していくところがビーチバレーの最大の魅力であると思います。

Q4, 来年以降の抱負

ペアはまだ決まっていますが、大学最後の年、絶対に優勝します。

Keio Volleyball
2022